

社会性報告

社会とともに

Kawasaki の心と技術を社会で役立てたい 〈社会貢献活動〉

活躍する消防・防災用、 救急医療用ヘリコプター

予期せぬ災害や一刻を争う急病などに迅速かつ確実に対応するための「安全で安心な社会整備」の一環として、消防・防災用、救急医療用ヘリコプターを開発。航空輸送分野で培われた当社の技術を社会の中に広げています。



消防ヘリコプター (BK117 C-2型)

ドクターヘリ (BK117 C-1型)

米国ハリケーンの災害に対する支援活動



米国で甚大な被害をもたらした大型ハリケーン「カトリナ」の被災地・被災者を支援するため、義援金を米国赤十字社に、また、災害復旧用として当社製の多目的車「MULE」12台を米連邦危機管理庁に寄贈しました。

学生フォーミュラ活動を製品と技術で支援



モノづくり教育の一環として、(社)自動車技術会が技術系大学生を対象に開催しているカーレース「学生フォーミュラ」。当社は大学にエンジン提供や技術支援を行うとともに、大会運営のサポートも行っています。

動物園の運営をサポート



当社は神戸市立王子動物園の運営を応援する「動物サポート制度」に協賛し、ジャイアントパンダをサポート。1951年にオープンした同園が、これからも動物たちとの出会いを広く市民に提供し、発展していくことを願っています。

進水式には地域の方々をご招待



地域住民の方々をお招きし、進水式の感動的なシーンを体験していただいています。参加者の中には、小さなお子様連れの方も見受けられ、目の前で繰り上げられるセレモニーは、小さな見学者の心に深く刻まれることでしょう。

ヴィッセル神戸を 地元ファンとともに応援

神戸に本拠地を置くJ2リーグサッカーチーム「ヴィッセル神戸」。Kawasakiは、地元密着でサポーターを大切にこのチームを地域の皆様とともに応援しています。



©ヴィッセル神戸

周辺地域のクリーンアップ



当社の従業員やその家族は、自主的に周辺地域のクリーンアップ活動を行っています。清掃後、町や海岸からゴミがなくなったときの清々しさは、また格別です。

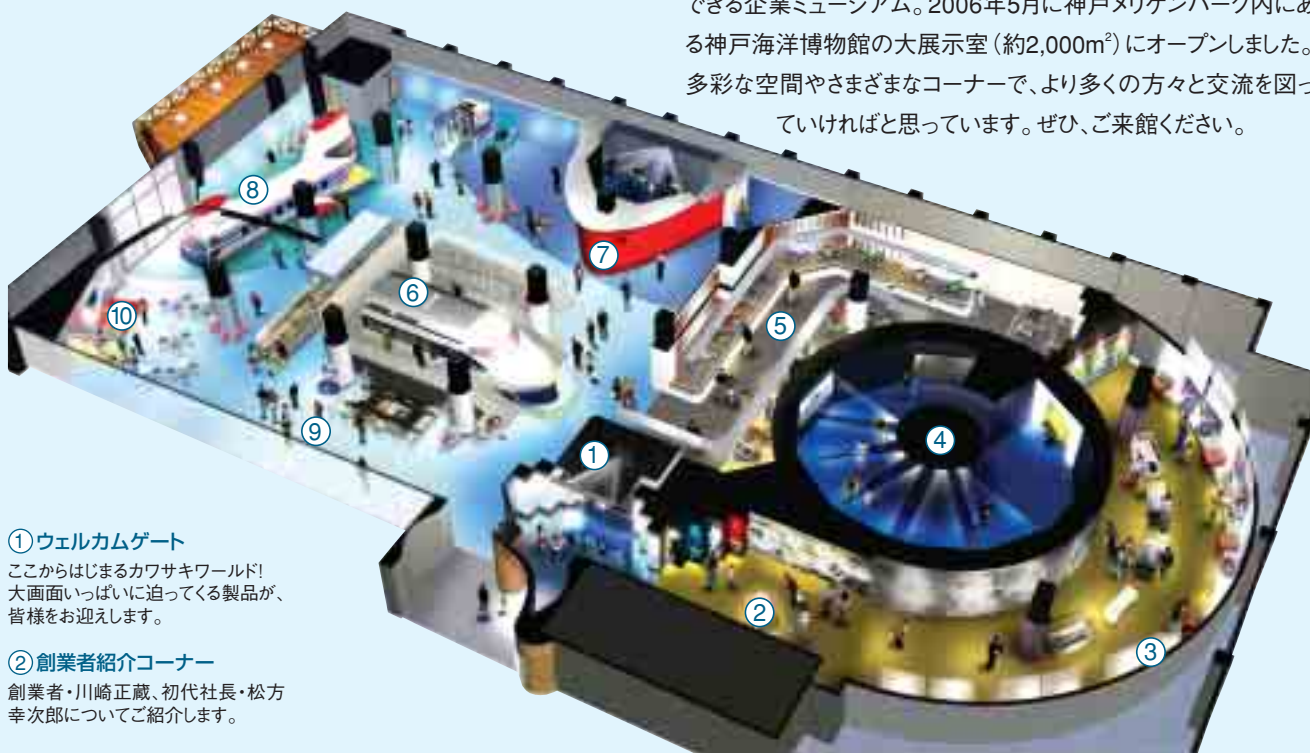
さまざまな対話を通じて、より親しまれる企業へ 〈社会とのコミュニケーション〉

「見て、触れて、学ぶ」をキーワードにした 企業ミュージアム「カワサキワールド」が誕生

川崎重工業株式会社——その社名の「重工業」という文字から、皆様はどのようなイメージをお持ちでしょうか。モーターファンやマリンレジャーに興味のある方なら、二輪車やジェットスキー®などで

おなじみかもしれません。しかし、それ以外の方でも新幹線電車に乗った経験はきっとお持ちのはず。川崎重工グループでは、新幹線電車をはじめとする鉄道車両や船舶、航空機など、陸・海・空にわたってさまざまな製品をつくり出しています。

カワサキワールドは、そんな Kawasaki に触れ、体験することのできる企業ミュージアム。2006年5月に神戸メリケンパーク内にある神戸海洋博物館の大展示室(約2,000m²)にオープンしました。多彩な空間やさまざまなコーナーで、より多くの方々と交流を図っていければと思っています。ぜひ、ご来館ください。



① ウェルカムゲート

ここからはじまるカワサキワールド! 大画面いっぱい迫ってくる製品が、皆様をお迎えます。

② 創業者紹介コーナー

創業者・川崎正蔵、初代社長・松方幸次郎についてご紹介します。

③ ヒストリーコーナー

豊富な写真と製品模型で、造船業から総合重工業へと発展した1世紀以上にわたる川崎重工グループの歴史をたどります。

④ カワサキワールドシアター

多彩な製品群をダイナミックな音と6つの大画面映像で展開します。

⑤ モーターサイクルギャラリー

Kawasaki モーターサイクルの歴代マシン、レース車など、数多くの実車を展示しています。

⑥ 陸のゾーン

0系新幹線の実物を展示。客室や運転室にも入ることができます。

⑦ 海のゾーン

川崎造船神戸工場で行われている船舶の建造方法や進水式の様子を3面マルチ映像でごらんになれます。

⑧ 空のゾーン

大型の川崎バトルKV-107 II型ヘリコプターの実物を展示。操縦室・客室内部をのぞいてみるができます。

⑨ 地球環境コーナー

新エネルギーの技術や地雷探知除去システムなど、これからの地球環境を考えた川崎重工の新しい取り組みをご紹介します。

⑩ パフォーマンスロボット

工場などで活躍する産業用ロボットがルービックキューブに挑戦します。



③ ヒストリーコーナー



⑤ モーターサイクルギャラリー



⑥ 陸のゾーン ⑦ 海のゾーン



⑧ 空のゾーン

お客様とともに

お客様のために 私たちの使命と責任

Kawasaki は、常にお客様のことを考え、製品を通じてご満足いただけることを第一の使命としています。その代表例として、多くのお客様と接し、二輪車やジェットスキー[®]などを販売している汎用機カンパニーの事例を紹介します。

お客様の声を真摯にお聞きします

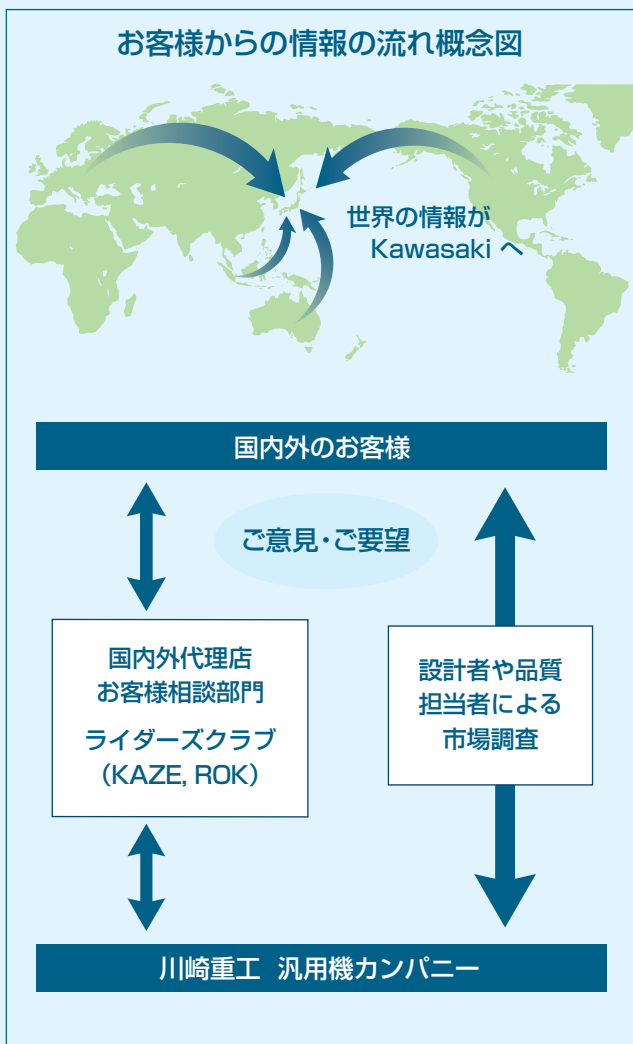
Kawasaki の製品やサービスに満足していただくことが、私たちの使命です。

川崎重工 汎用機カンパニーでは、国内外の代理店にお客様関連の相談室を設け、お客様からのお問い合わせやご相談、ご要望をお聞きし、迅速で的確、丁寧な対応を心がけています。

また、設計者や品質担当者が直接市場を訪れ、お客様や販売店の生の声をお聞きする活動も定期的に行っています。

こうして得た製品に対するご意見は各部門にフィードバックし、商品開発やサービスの向上に役立てています。

お客様からの情報の流れ概念図



お客様に遊びの場を

数百台のカワサキマシンが一堂に会する高原。激しい日差しの下、水しぶきを上げながら競い合うマシンを見つめる砂浜。そんな場所でないとお会えない仲間や味わえない感動を発見するためのお手伝いを、国内ではカワサキライダーズクラブ「KAZE(カゼ、Kawasaki Amusing Zone for Everybody)」[®]、米国では「ROK (Riders of Kawasaki)」を通じて行っています。

米国のライダーズクラブ「ROK」試乗会



国内のライダーズクラブ「KAZE」のイベント(沖縄)

インターネットを通じ最新の情報を提供

私たちは、インターネットホームページを通じ、さまざまな最新情報を提供しています。これには、ニューモデルなど製品の紹介や、パーツリストなどサービスにかかわるもの^(注)の他に、リコール等にかかわる情報も含んでいます。

カワサキ
モーターズジャパンホームページ
<http://www.kawasaki-motors.com/>



^(注)リコール等への対応について

製品に不具合が発生しないように努めるのがメーカーの責務です。しかし、万一予期せぬ問題が発生し処置が必要と判断した場合には、私たちは次のような対応を実施します。

- 各国の法規に沿った当局への届出
- ダイレクトメールによるお客様へのご通知
- 製品の回収および無償修理

コース概要

コース全長	4,674m (3,022m)
コース幅	12m-15m
最大直線長	902m
最大縦断勾配	登り 7.2% 下り 10%
最大横断勾配	3%
最大標高差	52m

オートポリスサーキット (大分県日田市)
より高性能な二輪車開発のために、Kawasaki が取得した本格的な公認サーキット。テストコースとして使用されるほか、全日本ロードレース選手権 (二輪)、全日本GT選手権 (四輪) などのレース会場、さらには、一般のライダーやドライバーを対象としたモータースポーツイベントにも利用されています。



オートポリスサーキットのレイアウト

お客様とのかかわりの中での品質保証

川崎重工 汎用機カンパニーでは、お客様に評価されてこそ企業価値・ブランドイメージは確立されるとの考えのもと、お客様のニーズを商品企画の中に取り込み、開発 (設計・実験)、部品調達、製造・検査の各段階において品質保証を実施するとともに、市場

サービスなどお客様とのかかわりの中で高品質確保に努めています。さらにレギュレーションで要求される項目も、製品のつくり込み活動の中で織り込み、お客様に安心して安全にご使用いただける製品にしています。

Kawasaki の品質保証システム



従業員とともに

いきいきとした職場へ

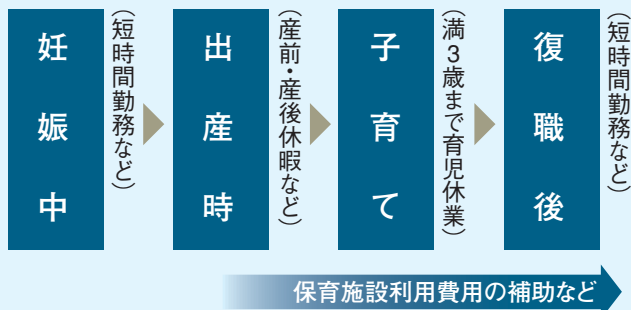
当社は従業員一人ひとりが個性を発揮しながら、いきいきと働ける職場づくりを目指して、さまざまな制度を導入するとともに、その内容の充実を図っています。

「働きがい、生きがい」を支援

次世代育成支援制度

従業員が仕事と子育てを両立させながら、いきいきと働きつづけることができるよう支援する制度です。これまでの育児休業期間は、対象となる子女が満1歳に到達するまでであったものを満3歳到達時まで延長するなど、男女を問わず子育てを行う従業員が、退職することなくその能力を存分に発揮できるよう、職場環境の整備に力を入れています。また、この制度が広く活用されることを目指し、育児を行う従業員への理解と協力が得られるよう、企業風土・体制づくりを行っていきます。さらに、保育所・託児施設・ベビーシッター・ホームヘルパーにかかる費用の補助についても、育児支援のためのメニューとして、従業員の意見を取り入れながら内容の充実に取り組んでいきます。

各段階で利用できる子育て支援



定年延長+再雇用制度でより長く働くことが可能に

当社は2005年4月より定年を段階的に延長し、2010年には63歳を定年とすることにしました。加えて、2006年より1~2年の再雇用期間を設け、最終的には、2012年に63歳定年プラス2年の再雇用とし、これまで長年にわたり習得してきた技術や知識、ノウハウなどを65歳まで活かせることになりました。当社は早くから定年問題の検討をつづけてきたこともあって、他企業に先駆けて定年延長の実施に至りました。

一方、これに伴い高齢者にやさしい職場環境づくりにも取り組んでいます。従業員一人ひとりが安心して長期にわたって働きつづけることのできる環境こそが、個々の能力を高め、さらには従業員の「生きがい、働きがい」につながるものと考えています。

基幹職[※]再雇用制度

再雇用制度については、基幹職に対しても検討がなされ、定年延長は適用されないものの、2006年10月より段階的に3~5年の再雇用期間を設け、2014年度以降には、最長65歳まで働くことが可能となります。これは、基幹職としての技能や経験、知識が定年後も活かせることになり、本人のみならず企業としても有益な制度です。

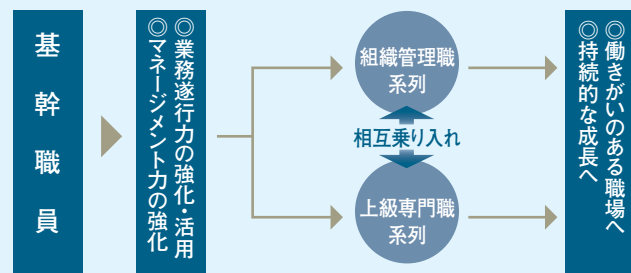
基幹職再雇用制度の運用にあたっては、社内の労働市場の情報集約と、情報に基づく基幹職の調整・配置を行う組織として、ワークネット室を設立。個人の経験や能力などをデータベース化し、人材の流動化・有効活用を行うとともに、定年を迎えるまでの早い時期に、それ以降のキャリアデザイン（働き方）についての研修を実施するなど、支援活動を行っていきます。

※参事・課長以上の幹部職員

「挑戦」と「信頼」を組み合わせた 基幹職員の人事処遇制度

持続的に成長する組織づくりを目指すと同時に、個人の働き方に応じ、職務や報酬の選択が可能となる新たな人事処遇制度が、基幹職員を対象にスタートします。基幹職員層を、部門長として組織運営を担う者（組織管理職系列）と、業務上の知識・経験を活かしてより高度な業務を担当する者（上級専門職系列）に区分し、報酬も、結果が求められる組織管理職系列と、それを支える上級専門職系列のそれぞれの役割に応じた設定がなされています。また、組織管理職系列と上級専門職系列は、固定的なものではなく、各人の成長・適性・専門性などに応じて相互乗り入れが可能となっています。

基幹職員人事処遇制度のしくみ



職場の安全づくりと健康づくり

従業員の安全と健康を守ることは、企業の重要な使命です。当社は「健全な職場づくりの推進」を目指し、さまざまな安全管理活動ならびに衛生管理活動を推進しています。

安全管理活動

マネジメントシステムの運用推進

全社のモデル事業所を定め、マネジメントシステム運用推進の検討会などを通じて現状課題の把握や今後の改善策などについて話し合い、安全衛生水準の向上に努めています。

KSKY運動の継続実施

2002年より実施しているKSKY運動は、当社の重要な安全施策です。安全の基本ルール厳守による規律ある職場づくり(K)、指差し呼称による確認行動の徹底(S)、そして危険・有害性に対する感受性のさらなる高揚を図り(KY)、従業員一人ひとりが自主的に参画する意識を高めるとともに、「相互注意」が行える職場を目指して取り組んでいます。

中央労働災害防止協会による安全パトロール

一層の安全衛生管理の向上と各事業部門の災害防止を目的として、中央労働災害防止協会の安全管理士による安全パトロールを2005年から実施しています。これにより事業所の安全管理は着実に改善が見られ、2巡目となる今年は、パトロールの内容を変えて実施するなど、工夫することでさらなる改善を図っています。

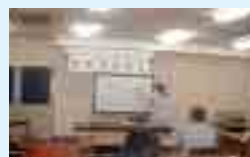


安全管理士による安全パトロール

衛生管理活動

各種健康教室の開催

全社THP※活動の一つとして「禁煙チャレンジ教室」、「生活習慣改善教室」、「高血糖改善教室」、「歯科衛生教室」などの各種健康教室を開催し、健康管理の推進を図っています。対象者は、希望者のほか、新入社員や定期健康診断の結果で生活習慣病の所見があった従業員などです。



歯科医師による講話



歯科医師・歯科衛生士によるブラッシング指導

※THP (Total Health Promotion)

ストレスチェックの実施

定期健康診断時に従業員の日ごろのストレス度をチェックし、ストレス度の高い従業員には、産業医による問診と個別指導を実施しています。

疲労蓄積度自己診断チェックの実施

長時間勤務者を対象に「疲労蓄積度自己診断チェック」を義務付けています。疲労蓄積度が高い従業員には産業医による問診と個別指導を実施しています。

アスベストに対する取り組み

過去にばく露の恐れがあった従業員ならびに退職者などの健康に配慮するのはもちろん、各種法令・規則を遵守し、また関係官庁等の指導に沿って周辺環境の保全に十分心がけています。

ペプシノゲン検査の試行

胃がんの早期発見を目的として、ペプシノゲン検査(血液検査)を試行しています。2年間の試行期間のデータをもとに、今後、ペプシノゲン検査を併用した胃検診システムの確立を図る予定です。